

実施年度	実施主体	対象獣種
R8～R9	京都府	シカ、イノシシ

現状・課題

防護柵の設置延長は増加しているものの、設置後の維持管理不足により農地への鳥獣の侵入を許す事例が見られるほか、加害個体の効果的な捕獲が十分に進んでおらず、被害が減少していない状況にある。こうした状況を踏まえ、これまでの実証により成果が確認されている防護柵の異常（振動）を検知する侵入感知装置を活用し、加害個体の侵入経路を特定することで、効果的な捕獲の強化を図ることが求められる。

事業概要

集落における効率的な捕獲体制の構築と負担の少ない侵入防止柵の維持管理等を一体的に推進するため、

- 被害発生状況、出没情報等を調査等を整理した「集落カルテ」の作成、
- 侵入感知装置やセンサーカメラによる加害個体の特定や侵入経路の可視化、
- 把握したデータに基づく効率的な捕獲と防護柵の維持管理、
- 対策の実施後のモニタリング・評価、
- 個体処理※まで含めた持続可能な鳥獣被害対策の普及と定着を図るための取組

を実施。

※ 個体処理として、ジビエ利用等も検討。

活用機器

※交付金活用外の機器を含む

- 侵入感知装置
- センサーカメラ
- 捕獲檻、電殺器

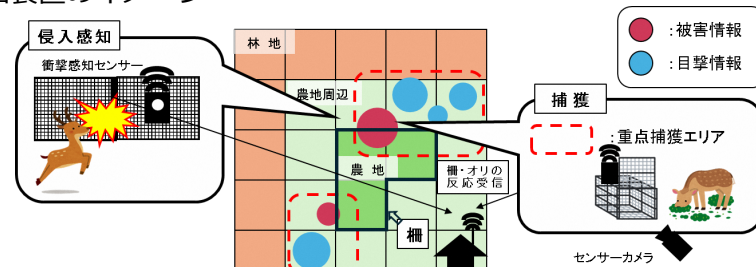
モデル地区の普及範囲

先行して実施した府内のモデル地区から府内の他地区に横展開

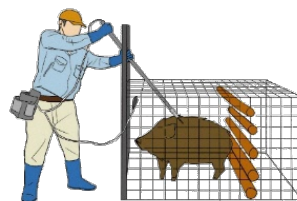
【イメージ】



侵入感知装置のイメージ



取組の流れ



侵入感知装置の
効果検証

現地調査
集落診断カルテ作成

カルテをもとに、
被害の把握、
管理体制を整備

侵入感知装置、
センサーカメラで
加害個体を確認

わな設置・捕獲
止め刺し・処分
防護柵の補修

被害、出没の状況を
モニタリング、評価

防除体制の継続